

W I - 1

種々の細胞株を用いたmRNAレベルでの非放射性 in situ hybridization (ISH)

菅原 勇（埼玉医大，総合医療センター、病理）

ISHは細胞や組織中の特定のmRNAやDNAを検出したり局在化するのに有用な方法である。ここでは我々が経験した非放射性ISHを用いて検出できた細胞株中のc-myc, c-fos, mdrl及びDNA topoisomerase I mRNA発現研究の一端を紹介したい。ISHに影響を与える因子はproteinase Kの濃度と時間、固定液の選択、プローブの長さである。プローブは50 merのアンチセンス合成oligonucleotideを用いた。対称としてセンス合成oligonucleotideを用いた。非放射性ISHは様々なバリエーションが考えられており成功率も高くなっている。mRNAレベルでのISHは細胞生物学における特定のmRNA発現の解析に非常な威力を発揮するだろう。